

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 V 】 |
| 2 実施対象者 | 中間市立中間西小学校 6年生 49名 5年生 44名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名（道徳科・体育科） ② 行事名（持久走記録会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ） |
| 4 目標 (ねらい) | ○ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、子どもたちにオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を持たせるとともに、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。 ○ 元オリンピック選手と一緒に運動を行うことで、子ども達に運動のすばらしさ、楽しさを実感させる。 |
| 5 取組内容 | 実践① 道徳科 ・題材名「これからの自分の生き方を考えよう」 ・ねらい「オリンピックメダリストの生き方から、これからの自分の生き方について考える」（「努力と強い意志」） フィギュアスケートの羽生選手やレスリングの吉田選手などのオリンピックメダリストの画像を子どもたちに提示し、共通点を考えさせた。共通点の一つとして、これらの選手が、皆、挫折を経験していることに気づかせ、オリンピックでメダルを獲得するというすばらしい結果を残した選手たちも、大怪我等の大きな挫折を経験し、そこから努力をして結果を残しているということから、「不撓不屈の精神」という言葉とともに、あきらめずに最後まで頑張り抜くことの大切さについて学んだ。 実践② 体育科 ○「持久走」 道徳科での学習と関連させ、「あきらめずに最後まで走る」「自分の記録を伸ばすことに向けて努力する」というねらいをもって取り組んだ。 準備運動には、ラダーを活用したり【写真1】ハードル走を取り入れたりして【写真2】瞬発力の向上もねらった。 |



【写真1】



【写真2】

持久走記録会に向けた実践的な練習では、校内に2 kmのコースを作り【写真3】、毎回タイムを取り記録を残すことで【写真4】記録の伸びを子どもたち自身が感じられるようにした。



【写真3】



【写真4】

○ 持久走記録会

バルセロナオリンピック女子陸上代表選手の小鴨由水選手を招聘した。

まず、5年生が小鴨選手にウォーミングアップの仕方を教わり、次に、記録会で一緒に走った。その後、6年生も同様の内容で実践を行った。

小鴨選手とウォーミングアップを行うことで、ウォーミングアップの大切さについて学んだ。また、走るときのコツとして、「疲れたときや息切れをしたときには、息を大きく吐くこと」や、「手をしっかり振って走ること」、「走っている最中は、後ろを見ずに、前をしっかりと見ること」を教えていただいた。記録会の最後には、小鴨選手から、「辛くても、きつくても、あきらめずに最後まで頑張ることの大切さ」について話をしていただいた。



6 主な成果

実践①では、オリンピックメダリストの具体的な挫折に触れ、自分自身と重ねて、「あきらめそうになった時には、不撓不屈の精神で、頑張りたい」という感想を持った子どもが多く見られた。さらに、3学期の持久走記録会との関連を図ったことで、「持久走記録会では、最後の最後まで自分を信じて、少しでも記録が伸びるように頑張りたい」という声が多く聞かれた。

また、多くのアスリートを紹介したり、2020年東京オリンピック・パラリンピックに触れたりしたことで、日本で開催されるオリンピック・パラリンピックに対して、興味・関心を高めることもできた。

実践②の持久走大会では「小鴨選手に教えていただいたウォーミングアップをしたら、いつもより走りやすかった」「小鴨選手と準備運動をしたり、一緒に走ったりすることで、とても楽しく走ることができた」「走ることは、きついし、嫌いだけれど、小鴨選手が言って

| | |
|---------------------|---|
| | <p>いたように、今日の持久走から逃げずに頑張りました。これからも辛いことやあきらめそうなことから逃げずに頑張りたいと思います」といった感想が聞かれた。小鴨選手と一緒に走ったことで、子どもたちの意欲が高まり、実際に、記録が向上している子どもが多かった。</p> <p>さらに、オリンピックに出場した小鴨選手と同じ場所で、同じ時間に走ったこと、小鴨選手自身の言葉であきらめずに努力することの大切さを伝えてもらったことで、これからの自分の生き方を考えることができた。また、小鴨選手のような多くのアスリートが出場するオリンピックをより身近に感じ、東京で行われる大会への期待や興味が膨らんでいることがうかがわれた。</p> |
| 7実践において工夫した点(事業の特色) | <p>本実践においては、道徳科と体育科を関連付けて行った。まず、実践①(道徳科)で「あきらめずに最後まで頑張ることの大切さ」を学び、実践②(体育科)で、持久走への取組を通して子どもたち自身が実践することができた。さらに、持久走記録会当日に、元オリンピック選手である小鴨選手の口からも「最後まで頑張ることの大切さ」を話していただいたことで、これからの自分自身の生き方や考え方を考え感想に表すことができた子どもが多かった。</p> <p>また、実践②では、持久走の練習を行う際に、様々な器具を用いた運動を行わせることを試みた。器具を使った複数の運動を組み合わせることで、子どもたちは、意欲的に練習に取り組むことができた。さらに持久走大会では、講師と一緒に走るだけでなく、講師にウォーミングアップの指導をお願いした。普段、子どもたちが何気なく行っている準備運動の指導をして頂いたことで、準備運動の大切さに気づき、また、具体的な準備運動の方法についても学ぶことができた。</p> |
| 8主な課題等 | <p>持久走記録会を3学期に実施したため、今回の学習を以降の学習に活かす活動を位置づけることが難しかった。また、実践②の最後の活動に講師を招聘したため、教えて頂いた準備運動などを今年度の持久走の練習に活かすことができなかった。実践を年間計画の中に位置付け、見通しをもって取り組んでいくことが必要である。</p> |
| 9来年度以降の実施予定 | <p>持久走記録会は一校一取組として来年度も取り組んでいく予定である。今回学習した実践①や実践②を職員間で共有し、道徳科の学習と体育科の学習を関連付けて行うことを他の学年にも広げていきたい。</p> <p>また、社会科や総合的な学習の時間の学習などを通して、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めていくような働きかけを進めるとともに、そのことを通して国際的な視野をもった子どもの育成を目指したい。</p> |